

ユダヤ・イスラエルに思う^⑭ ヘロデ大王が死にイエスが生まれた年

長谷川 修

私たちが使う西暦（キリスト紀元）は、イエス・キリストの生誕の年を基準に設定されている。六世紀初め、キリスト教世界にはいろいろな暦があり混乱していた中で、数学・天文学に秀でた修道院長がキリスト紀元を提唱する。これが一〇世紀になると教会だけでなく一般社会にも普及した。紀元を表すADはanno Domini（主の年：ラテン語）だが、長い間ゼロやマイナスの概念もなく序数詞のみであり、紀元前のBC（Before Christ：英語）の考えが導入されたのは一七世紀のことである。

近代になるとグローバル化の進展と利便性から、世界の暦はイスラム世界のヒジュラ暦を除いてほとんど西暦に統一されている。（日本では公文書に元号が使われるが、実質的には西暦が支配的だ。）

ところで、歴史年表にはイエスの生年はBC四年（BC七年説もある）とあり、提唱者の計算とは異なる。この根拠はユダヤのヘロデ大王が死んだ年がBC四年であり、イエスの生誕は、ベツレヘムの二歳以下の男子を全員殺すようにと命じた大王が存命中でなければ、聖書の記述「天使のお告げでイエス親子はベツレヘムからエジプトへ逃れた」と整合が取れない。後の歴史家は聖書の記述を正しいとしたのである。

聖書物語と歴史事実を比べるのは野暮かもしれないが、イエスの生涯で確実なことは、ガリラヤ地方でユダヤ教ナザレ派のリーダーだったことと、ローマ総督ピラトによってエルサレムで磔刑に処せられたことだけであり、幼年時代のこととは全く不明だ。また、ヘロデ大王は辺境の部族出身で、自分の家族を大勢殺し民衆を建設工事に動員した暴虐王として、ユダヤ教からもキリスト教からも嫌われている。しかし、ユダヤの国家指導者として、占領軍ローマと友好関係を築き、エルサレム神殿の大改造や都市・港湾造りを進めた人物として見直されても良い。

先のオリンピックは、「東京2020」と称されたが、六世紀の修道院長に計算間違いがなければ、「東京2024」と呼ばれたであろう。